

『茎葉処理除草剤抵抗性雑草の発生と対策』 経済部生産購買課

組合員の皆様、今まで効果の高かった農薬がだんだん効かなくなり最後にはまったく効果がなくなって困ったという経験はありませんか？

殺虫剤や殺菌剤に多い現象ですが、このことを「抵抗性が発達した」という風に言います。また、抵抗性は同じグループ（分類）の薬剤を続けて使うことで発達が促進されたり、その程度が深刻になることが知られています。

また最近、一部の雑草に対して茎葉処理除草剤の抵抗性が発達した事例が見受けられており注意が必要です。茎葉処理除草剤の抵抗性が発達した具体例としては、畦畦や麦畑のネズミムギ（イネ科）、圃場周辺や駐車場のオヒシバ（イネ科）、線路際等のヒメムカシヨモギ（キク科）、休耕田等のオオアレチノギク（キク科）などが報告されています。

では、どのように抵抗性の発達に対して対策を行うべきでしょうか？

抵抗性に対して有効といわれている対策の一つが「ローテーション散布」です。幾つかの異なる種類（分類）の茎葉処理除草剤を順番に使うことで抵抗性の発達を遅らせたり、既に抵抗性が発達した雑草を防除することが期待できる手法です。

以下に、代表的な茎葉処理除草剤をグループ（分類）分けしたものを（表-1）に掲載しましたので薬剤の特性に合わせたローテーション防除を心掛けてみてください。



表-1 茎葉除草剤の分類と作用機作

分類	商品名	作用機作	作用性	根への効果	速効性	残効性
バラコート・ジクワット系	プログロックスL	活性酸素過剰生産	接触	枯れない	速効	短い
グリホサート系	タッチダウンIQ ラウンドアップMAXロード カルナクス	タンパク質合成阻害	吸収移行	枯れる	遅効	長い
グリホシネート系	バスタ液 ザクサ液	グルタミン生合成阻害	接触	枯れない	速効	短い